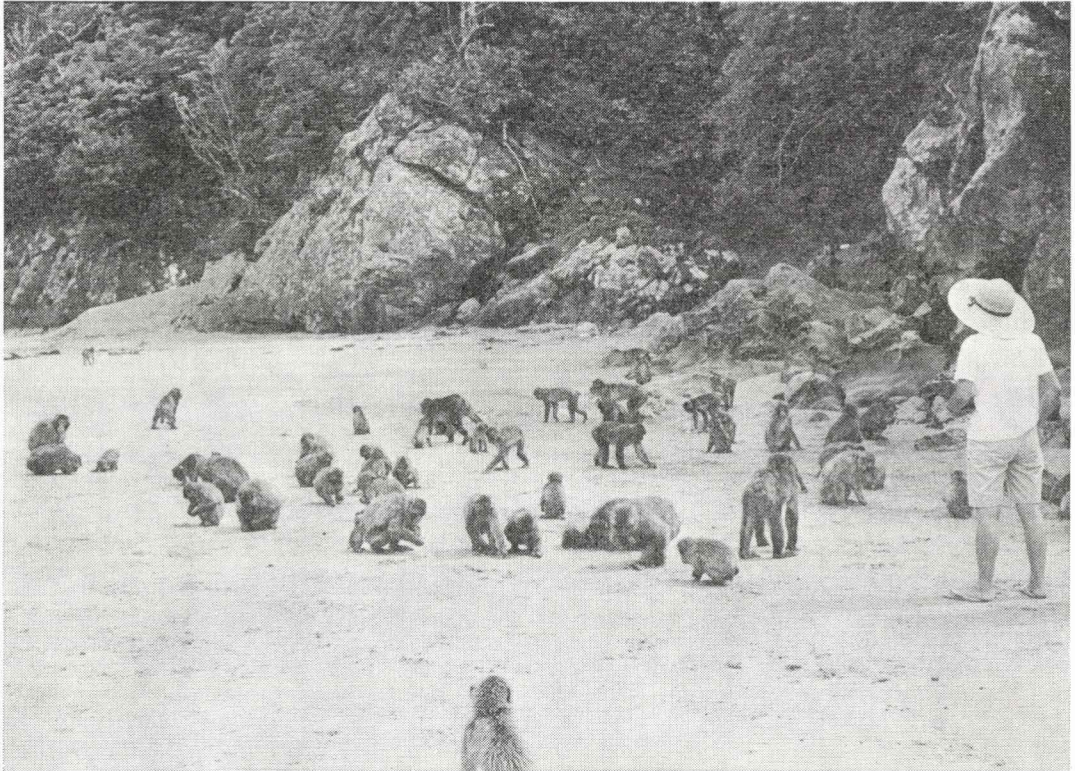


京大広報

No. 201

京都大学広報委員会



ニホンザル幸島群（霊長類研究所・幸島野外観察施設）

幸島には天然記念物として保護されているニホンザルの一群約100頭が生息している。これらのサルについては、すべて戸籍簿が作られ家系図が完成している。—関連記事本文5ページ—

目次

放射性同位元素汚染をめぐる諸問題について 総長 沢田敏男……………2	数学入門公開講座……………4
沢田総長、東南アジアの大学等を訪問……………2	農業簿記・農業経営講習会……………4
7月25日の捜査について……………2	人文科学研究所夏期公開講座……………5
学生部長の交替……………3	＜紹介＞
東南アジアセミナー……………3	霊長類研究所・幸島野外観察施設……………5
国際シンポジウム「恒星進化論の基本問題」……………3	＜随想＞
公開講座 高等学校関係者のための現代数学展望……………4	二人の総長の思い出 名誉教授 相良惟一……………6
	訃報・日誌……………7

放射性同位元素汚染をめぐる 諸問題について

総長 沢田 敏 男

過日、工学部原子核工学教室の一部実験室に、放射性同位元素による古い汚染が発見され、さらに、これを契機として行なわれた総点検の結果、工学総合研究センター（旧工学研究所）においても、一部に古い汚染が検出された。今回の事態にあたって、工学部では、汚染の発見以来、入念な汚染検査を行ない、すみやかな除染作業を進める一方、汚染原因の究明、被曝の評価等の調査を行ない、可能な限りの措置を講じた。この間、学内外の関係各位にご心配をかけたことは、誠に遺憾である。

放射性同位元素を用いる研究は、科学の広い分野に関連するもので、それらに関する教育・研究・診療が重要なものであることは言うまでもない。京都大学では、多数の部局で放射性同位元素が使用され、放射性同位元素等取扱者も最近では千数百人の多数にのぼっている。本学ではかねてより、放射性同位元素の適正な管理の重要性に鑑み、放射線障害の発生を防止し、学内外の安全を確保する目的で、昭和35年に「京都大学放射線障害予防規程」及び「京都大学放射性同位元素等管理委員会規程」を制定し、学内管理体制の整備を図ってきた。これらの規定に基づいて、各部局の

関係者による放射性同位元素の安全な取扱いへの努力が払われる一方、京都大学放射線障害予防小委員会による調査、点検、改善指導、助言等が行なわれてきた。また、放射性同位元素の取扱者等に対しては、放射線障害の発生を防止するための教育・訓練が関係者の協力のもとに行なわれてきた。

今回の事態に鑑み、全学の放射性同位元素の管理体制と教育体制のより一層の充実を図るため、学内共同利用施設である放射性同位元素総合センターの充実を含めて、関係部局における放射線障害の防止に必要な措置を積極的に進めるべきであると考えている。関係部局においては、安全性の再確認のため、部局の実情に応じ、放射性同位元素の使用施設等の調査・点検、より適切な管理方法の検討などの不断の努力がなされることを強く望むものである。そのほか、目下、京都大学放射性同位元素等管理委員会を中心として、広く本学構内の環境放射能の測定の前準備を行なっているが、この測定によって、環境放射能の現状を把握し、放射性物質の安全管理に資することを期待したい。

最後に、本学として、放射線障害予防のための管理体制の一層の充実を図ることはもとより、取扱者各自が、社会的責任をあらためて厳しく自覚し、放射性同位元素の使用において、一層適正かつ慎重な取扱いをすることを強く要望する。

<大学の動き>

沢田総長、東南アジアの大学等を訪問

沢田敏男総長は、さる8月16日から、国際大学協会総会出席並びに高等教育・研究機関等の視察及び学術交流に関する意見交換を行なうため、タイ、インドネシア、シンガポール、フィリピンの4か国を訪れ、予定どおりの旅程を終えて、8月28日帰学した。

主な訪問先は、タイのカセサート大学、チュロンコン大学、タマサート大学、大学庁、タイ国学術研究会議、インドネシアのインドネシア大学、ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、教育文化省、インドネシア科学院、フィリピンの国際稲

作研究所、フィリピン大学等であり、各訪問先においてそれぞれ関係者と意見の交換等を行なうとともに、フィリピン・インタナショナル コンベンションセンターで開催された国際大学協会の総会に出席した。

なお、バンコク（タイ）とジャカルタ（インドネシア）には、本学東南アジア研究センターの連絡事務所があり、両事務所において総長主催の交歓会が各国関係大学長、教授、在外日本大・公使及び本学に学んだ帰国留学生等を招待して開催された。

7月25日の捜査について

さる7月25日（金）、警察による学内捜査が行

なわれた。この日の捜査は、同日午前8時10分頃、左京区吉田本町27農学部前市バス停留所附近で起った暴力行為に係る凶器準備集合、暴力行為等処罰に関する法律違反、傷害に関する各被疑事件について突然行なわれたもので、関係部局長等が立会人となり、午後6時40分頃から始まり、9時10分頃終了した。

捜索は、本部・教養部構内(建物外)の敷地全域及び文学部自治会ボックス・教養部尚賢館について行なわれ、鉄パイプ・機関紙等が押収された。

なお、この日の捜査に関して、捜索の時間・場所及び物件の傾置について遺憾な点があったので、この旨を学生部長は警察に対し強く申し入れた。

学生部長の交替

8月1日、翠川 修学生部長の任期満了に伴い、その後任として藤原元始医学部教授(薬理学第一講座担当)が任命された。任期は昭和56年7月31日までである。

<部局の動き>

東南アジアセミナー

東南アジア研究センターでは、さる7月18日から31日までの間(日曜日を除く)、本センター教室において「昭和55年度東南アジアセミナー」を開催した。

このセミナーは東南アジア地域における自然、文化、社会について総合的に概説し、専門的研究に必要な基礎知識を与えようとするものであり、セミナーには広く各大学の大学院学生のほか、学部学生や研究者、および同地域の研究を専門とする人々など20名が参加し、連日午前9時から午後4時半まで受講した。

なお、講義題目、講師は次のとおりであった。

〔東南アジア農業の自然的基盤〕

概説(1) 気候(2) 地形・土壌	
(3) 植生(4) 農業	高谷 好一
モンスーン	安成 哲三
火耕水耨	福井 捷朗
オカボから浮稲まで	田中 耕司
メコンをデザインする	海田 能宏
スダシユルクの低湿地	古川 久雄
熱帯の火山灰土壌	古川 久雄

〔東南アジアのこころと美〕

東南アジアのこころ	鈴木 静夫
東南アジアの人と生活	前田 成文
タイのこころと文学	吉川 利治
インドネシアのこころと文学	加藤 剛
ビルマのこころと文学	南田みどり
東南アジアの建築美	野口 英雄
東南アジアとイスラーム	口羽 益生

東南アジアと仏教	石井 米雄
東南アジアと儒教	桜井由躬雄
東南アジア文献概説	北野 康子, 前田 成文
	加藤 剛, 石井 米雄
	桜井由躬雄

〔東南アジアの政治と経済〕

人口	小林 和正
政治	矢野 暢
経済	安場 保吉
国際関係	山影 進
A S E A Nの政治学	山影 進
A S E A Nの経済学	安場 保吉
タイはなぜ独裁か	矢野 暢
南北問題Ⅰー背景と潮流	江崎 光男
南北問題Ⅱー主要な論点	江崎 光男
工業化と商業資本の役割	吉原久仁男
農家と農業の営み	西村 博之
人口抑制政策はうまく	
行っているか	小林 和正
所得分配の動向ー	
貧困を根絶できるか	M. Bronfenbrenner
総合討論	渡部忠世 他
	教官若干名
	(東南アジア研究センター)

国際シンポジウム

「恒星進化論の基本問題」

基礎物理学研究所の主催する標記のシンポジウムが7月21日から25日まで京大会館で行なわれた。テーマは恒星と太陽系の形成、回転や磁場の星の進化への影響、連星系の進化等であり、13の総合講演のほか約50編の一般報告があり、活発な

討論がなされた。講演の一部は次のとおりであった。

星の形成過程での回転の効果

P. H. Bodenheimer

(アメリカ合衆国 California 大学)

星の形成過程での磁場の役割

T. Ch. Mouschovias

(アメリカ合衆国 Illinois 大学)

連星の形成

L. B. Lucy

(アメリカ合衆国 Columbia 大学)

主系列星までの進化

G. S. Bisnovatyi-Kogan

(ソビエト連邦宇宙空間研究所)

惑星の形成

林 忠四郎 (京都大学理学部)

質量交換が近接連星の進化におよぼす影響

A. V. Tutukov

(ソビエト連邦科学アカデミー)

近接連星進化の終段階

E. P. J. Van Den Heuvel

(オランダ国 Amsterdam 大学)

殻燃焼と白色矮星への物質付着の一般論

杉本 大一郎 (東京大学教養学部)

中性子星への物質付着による熱核反応

P. C. Joss

(アメリカ合衆国 Massachusetts 工科大学)

回転と星の進化

R. Kippenhahn

(西ドイツ Max-Planck 天体物理研究所)

磁場と星の進化

L. Mestel (連合王国 Sussex 大学)

超新星：その母体とメカニズム

J. C. Wheeler

(アメリカ合衆国 Texas 大学)

縮退星での超新星爆発

野本 憲一 (アメリカ合衆国航空宇宙局)

参加者は128名、うち国外からの参加者は米国15、英国4、ソ連邦4、ベルギー4、西独2のほかオーストラリア、カナダ、中国、東独、フィンランド、フランス、イタリア、オランダ、ポーランドから各々1名であった。

(基礎物理学研究所)

公開講座 高等学校関係者のための現代数学展望

理学部数学教室は、昨年に引きつづき、第2回の公開講座を実施した。今回は昨年より参加者のわくを少し広げて高校教員のみでなく、大学等の職員にもよびかけた。講義は下記のテーマにより7月25日から31日まで、日曜日をのぞく6日間行なわれ、参加者は近畿一円から約70名が受講した。会期中に、参加者有志と講師全員との懇談を行なったが、率直な意見が交換された。特に、近畿では高等学校関係者が数学の進歩を知ろうとしても、その機会がきわめて少ないことが訴えられ、この種の事業を一層恒常的なものにするのが要望された。

講義内容と講師は次のとおりであった。

解析学の話Ⅰ 最近の差分方程式 山口 昌哉
解析学の話Ⅱ 計量について 吉沢 尚明
幾何学の話 目に見えるトポロジー

戸田 宏

代数幾何の話 楕円曲線について 上野 健爾

(理学部)

数学入門公開講座

数理解析研究所では、さる7月29日から8月7日までの間(8月2日、3日を除く)、数理解析研究所4階大講演室において「数学入門公開講座」を開催した。

この公開講座は、社会人、中学・高校教師、学生等、ある程度数学の素養のある一般人を対象に、専門的題材をわかりやすく解説しようとするものであり、講座には大学生、大学院学生、教師、社会人、高校生等約130人が受講した。

なお、講義題目、講師は次のとおりであった。

数値計算の落とし穴 一松 信
電気振動の話 上田 皖亮
地底の物体の形について 松浦 重武
流体の数理 後藤 金英

(数理解析研究所)

農業簿記・農業経営講習会

農学部農業簿記研究施設では、さる8月1日から6日までの間、農学部講義室において公開講座

「第44回 農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画に関する理論と実務の普及をねらいとしたものである。講習には農業改良普及員、高校教員、府県・各種団体職員、農家など全国各地から約140名が参加し、連日午前9時から午後5時まで受講した。講義科目、講師は次のとおりであった。

農家経済簿記	菊地 泰次, 桂 利夫
農業経営複式簿記	頼 平, 阿部 亮耳
農業投資および資金の計画・管理・分析	頼 平, 亀谷 暈
農業経営・地域農業の分析・診断・計画	吉田 忠, 熊谷 宏
	武部 隆

共通講義：雑草防除における今日的課題
植木 邦和 (農学部)

人文科学研究所夏期公開講座

人文科学研究所では恒例の夏期講座を8月1日

から3日間、本館（吉田牛ノ宮町）において開催した。

この講座は、本研究所に日本部、東洋部、西洋部の三部ができてのち、毎年の夏に開催されており、本年は31年目になる。今年の共通テーマは、「芸術と社会」であり、詩・小説・評論などの文学、絵画・建築といった造形芸術について、それが生みだされた社会とのかかわりを考察することであった。3日間とも約100名の受講者があった。

演題、講師は次のとおりであった。
官僚機構とデザイナー
一妻木頼黄の意匠について— 井上 章一
錦絵の社会史 佐々木 克
風流人の文学—東晋の社会と文学— 矢淵 孝良
天竺をたずねて—玄奘と光智— 桑山 正進
小説のなかの社会
—プルーストの作品をめぐる— 天野 史郎
アポリネールと現代 宇佐美 齊 (人文科学研究所)

<紹介>

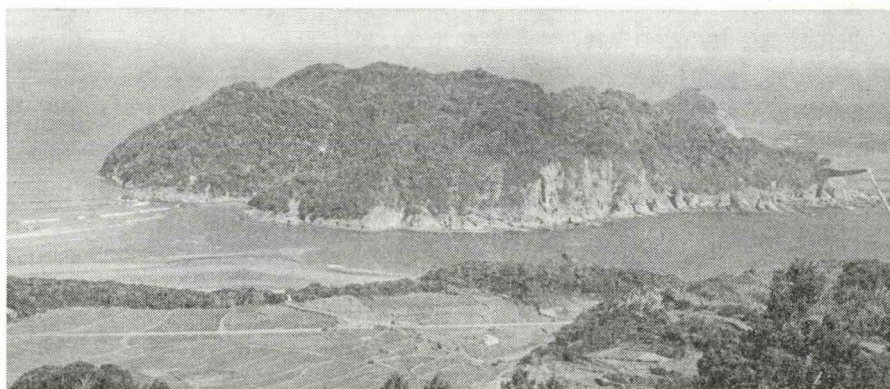
霊長類研究所・幸島^{こうしま}野外観察施設

本施設は、霊長類研究所設立の翌年度にあたる昭和43年度に新設され、本年で13年目、2度目のサルどしを迎えている。施設そのものは宮崎県の南端の串間市大字市木字吹切の海岸^{くしま いちまき ぶきり}にあり、5,626㎡の構内に98㎡の施設棟（本年度内に増築を予定中）のほか、車庫、仮設艇庫、職員宿舎（2棟）等が配置されている。

研究は上記の施設を基地とし、幅約300mの小水道をへだてて存在する周囲3～4kmの小島、幸島に生息する約100頭の野生ニホンザルを対象として行なわ

れている。幸島は串間市に所属し、昭和9年、全島が天然記念物に指定されており、本施設としても、幸島の自然の保存に心掛けている。

ニホンザル幸島群についての研究の歴史はかなり古く、昭和23年、本学理学部動物学教室の今西錦司、伊谷純一郎、川村俊蔵氏らいわゆる霊長類研究グループの一行が島のサルの調査を行なって以来、本施設の新設に至るまでに、すでに20年の



幸 島 全 景

日 誌

(1980年6月1日～8月31日)

- 6月2日 附属図書館商議會
- 3日 大学院審議會
 ♪ 建築委員会
- 4日 防火委員会
- 6日 ウイルス研究所学術講演会
- 9日 総長, 大学院生協議会と会見
 ♪ 創立記念日行事「音楽会」
- 10日 総長, 職員組合と交渉
 ♪ 放射性同位元素等管理委員会
- 11日 同和問題委員会
- 13日 環境保全委員会
 ♪ オーストラリア国 Queensland 大学副学長 補佐 G. N. Davies 氏来学, 学術交流協定について打合せ
- 18日 創立83周年記念式
 ♪ 名誉教授懇談会
- 20日 創立記念日行事「講演会」
 ♪ 中華人民共和国天津市電子計算機応用技術考察団団長(天津市科学技術委員会副主任) 李之珍氏外7名来学, 大型計算機センター見学
- 21日 理学部 玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会
- 25日 国際交流委員会
- 27日 ソビエト連邦共和国ソ連科学アカデミー副総裁 Valentin A. Koptug 氏外2名来学, 国際交流委員会委員長と懇談
- 30日 組換え DNA 実験安全委員会
 ♪ イラク国大学間交流代表団団長(高等教育・科学研究省科学技術担当次官) Naji Tawfig Mohammed 氏外4名来学, 総長と懇談および学内施設見学
- 7月1日 評議會
- 4日 放射性同位元素等管理委員会
 ♪ フランス国ユネスコ教育計画研究所長 Michel Debeanvais 氏来学, 関係教官と懇談
- 9日 附属図書館商議會
 ♪ 中華人民共和国中国科学院代表団団長(中国科学院副秘書長) 趙北克氏外4名来学, 総長と懇談および学内施設見学
- 11日 安全委員会
- 16日 国際交流委員会
- 18日 東南アジア研究センター「東南アジアセミナー」(7月31日まで)
- 21日 基礎物理学研究所国際シンポジウム「恒星進化論の基本問題」(7月25日まで)
 ♪ 中華人民共和国中国科学技術管理視察団団長(国家科学技術委員会副主任) 童大林氏外12名来学, 大型計算機センターおよび情報処理教育センター見学
- 25日 放射性同位元素等管理委員会
 ♪ 理学部数学教室公開講座「高等学校関係者のための現代数学展望」(7月31日まで)
- 28日 アメリカ合衆国社会科学研究会議長 Kenneth Prewitt 氏来学, 関係教官と懇談
- 29日 学位授与式
 ♪ 数理解析研究所数学入門公開講座(8月7日まで)
- 8月1日 農業簿記・農業経営講習会(8月6日まで)
 ♪ 人文科学研究所夏期公開講座(8月3日まで)
- 16日 総長, 国際大学協会総会出席ならびに高等教育・研究機関等の視察および学術交流に関する意見交換のため, タイ, インドネシア, シンガポールおよびフィリピンの各国を訪問(8月28日まで)
- 25日 連合王国 英国科学研究審議会議長 Geoffrey Allen 卿来学, 国際交流委員会委員長および関係教官と懇談